

第 1594 回 (1 月 18 日)

わが国の農村が持つ社会安定化機能

明 石 光一郎

大内力は農業のもつ基本的な価値を以下の 4 つに分類している。①安定的な食料供給、②安全な食料供給、③自然環境の保全、④社会環境の保全。これらのうち③と④については農業の持つ外部経済効果として、研究が進められており、③については、森林のダム機能および国土保全機能、農用地のダム機能および国土保全機能などがよく知られている。④については、農山村の教育機能、伝統や文化の維持・継承機能、農山村の保健休養機能、景観の維持機能などが知られている。

これらにくわえて、荏開津は農村コミュニティの存在が日本の社会を安定化させる機能を持つことを指摘した。すなわち、日本は他の先進国と比較して所得分配が比較的平等であり、離婚率や犯罪発生率も低い安定した社会であることを指摘する。そして日本における農村の存在がこの社会の安定に貢献しているのではないかという。さらに、日本国内においても、東京と大阪を除く地域は東京、大阪に比べて離婚率、犯罪率ともに低く、安定的であることを指摘する。

農村の持つ社会安定化機能としては大要以下のものが考えられる。失業者吸収、労働力のプール、避難所（戦災時、震災時）、高齢者の保護（介護、住宅供給、職業供給）、安全維持（防犯）などである。

わが国の農村は以上のような様々な望ましい機能を有していると考えられるが、本報告では安全維持機能を中心に考察を行った。すなわち、わが国の農村は安全維持機能を有しており、そのために農村地域の犯罪発生率は都市と較べて低く、かつ農村の存在自体が都市の安全の維持にも役立っていることを示すことを目的とした。

農村の安全維持機能は以下に述べるメカニ

ズムによっていると考えられる。

① 農村の持つ監視性と領域性。農村では都市と比較すると、監視性と領域性が強いといえる。農村には兼業化にもかかわらず村落共同体が残っており、その性格は安定的である事が指摘されている。日本の農村の村落共同体の結び付きがきわめて強固であることも川本らにより指摘されている。監視性と領域性が防犯の基本となることは警察庁によっても指摘されている。

② 農村の持つ教育機能。農村が人格形成に対して好ましい影響を与えることが指摘されている。

③ 農村の持つ失業者吸収機能。都市において失業した人間が農村で就業できれば、都市におけるスラムの発生を防ぎ、都市の犯罪を予防することになる。

本報告では 1974 年から 90 年にかけての県別のクロスセクション・データを用いた重回帰分析を行った。その結果、農村では都市と比較すると犯罪が発生しにくいこと、経済的困窮が犯罪を誘発する傾向があること、農村の存在は経済的困窮者を減少させ、犯罪を発生させにくくしていることが示唆された。したがって農村の存在は社会の安全維持に役立っているといえよう。

(参 考 文 献)

Egaitu F., "Japanese Agricultural Policy : Unfair and Unreasonable ?", W.T. Coyle, D. Hayes, and H. Yamauchi, *Agriculture and Trade in the Pacific*, 1992.

大内力『農業の基本的価値』, 家の光協会, 1990。

川本彰『むらの領域と農業』, 家の光協会, 1983。

警察庁監修, 伊藤滋編『都市と犯罪』東洋経済新報社, 1982。